

小 論 文

学校推薦型選抜

農学部 食料農学科
 生命科学科
 地域環境科学科
 動物科学・水産科学科

9 時 30 分～12 時 00 分 (150 分)

注意事項

1. 解答開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は、この表紙を除いて17ページです。
3. 問題1～7から3間について解答しなさい。各学科の問題は以下の通りです。

食料農学科

1, 2, 3

生命科学科

1, 2, 3

地域環境科学科

革新農学コース

1, 2, 4

地域環境科学科

森林科学コース

1, 2, 5

動物科学・水産科学科

動物科学コース

1, 2, 6

動物科学・水産科学科

水産システム学コース

1, 2, 7

4. 解答用紙は食料農学科，生命科学科，動物科学・水産科学科動物科学コースは5枚，それ以外の学科・コースは4枚です。
5. 下書き用紙は3枚です。
6. 解答は解答用紙に記入しなさい。
7. 印刷不鮮明およびページの落丁・乱丁に気づいた場合は，手を挙げて申し出なさい。
8. 3間の解答用紙の全てに本学の受験番号を記入してから解答をはじめなさい。
9. 試験終了後，問題冊子および下書き用紙は持ちかえりなさい。

- 1 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

出典等：

(中島祥好・上田和夫 『大学生の勉強マニュアル フクロウ大学へようこそ』ナカニシヤ出版,
2006 年より抜粋して一部改変。)

著作権の関係上、本文等は掲載できません。(P2~4)

出典情報のみ掲載します。

問 1.

問 2.

問 3.

問 4.

25 推薦 農 5/18

2 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

25 推薦 農 6/18

出典等：

(FAO and IFAD, “United Nations Decade of FAMILY FARMING 2019-2028 Global Action Plan”
<https://openknowledge.fao.org/server/api/core/bitstreams/5479e317-17b9-428b-9963-ba88e681ff16/content> より抜粋して一部を改変。)

著作権の関係上、本文等は掲載できません。(P5～6)
出典情報のみ掲載します。

問 1.

問 2.

問 3.

問 4.

- 3 次の文章を読み，以下の問いに答えなさい。

著作権の関係上、本文等は掲載できません。(P7~9)

出典情報のみ掲載します。

出典等：

(佐々木敏『行動栄養学とはなにか?』女子栄養大学出版部，2023 年より抜粋して一部改変。)

問 1.

問 2.

問 3.

問 4.

- 4 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

著作権の関係上、本文等は掲載できません。(P10~12)

出典情報のみ掲載します。

出典等：

(久我隆弘『“測る”を究めろ！—物理学実験攻略法』丸善出版2012 年より抜粋して一部改変。)

問 1 .

問 2 .

問3.

- 5 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

著作権の関係上、本文等は掲載できません。(P13~14)
出典情報のみ掲載します。
出典等：

(『森林環境 2011』財団法人森林文化協会，2011 年より抜粋して一部改変。)

問 1.

問 2.

問 3.

図 1.

6 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

我が国の畜産は、良質な動物性たんぱく質に富む畜産物の供給を通じ、国民の健康増進等に貢献してきただけではなく、地域資源の活用等による国土保全、景観形成や地域の雇用機会の創出にも寄与してきた。さらに、家畜とのふれあいや、教育ファームにおける体験学習等の機会の提供を通じて「食」や「生命」の大切さへの理解を増進し、心をより豊かにするといった役割も担ってきた。近年の畜産をめぐる情勢では、農家の高齢化や後継者不足の進展等による生産基盤の弱体化が見られるため、省力的な飼養環境の下でも高い生産性を発揮できる家畜が求められている。また、TPP11、日EU・EPA、日米貿易協定等の経済連携協定の進展や中国への牛肉輸出の再開に向けた動き、①少子高齢化や健康志向の高まり等による消費者ニーズの多様化等を受け、これまで以上に消費者から求められる「品質」とそれに応じた「価格」の両面で、「強み」のある畜産物を安定的に供給していくことが課題である。我が国の家畜の改良・増殖においては、長年にわたる関係者の取組により、家畜の能力や生産性、畜産物の品質等が大幅に向上してきたが、今後、課題となっている「強み」のある畜産物の生産を、より効率的に進めるためには、改良に資するデータをいかに効率的に集約して分析し、「家畜づくり」に生かすことができるかが鍵となる。

(中略)

上記の議論を通じて、「農場(生産者)」において、特に、家畜の生産性を高めるため、データを活用した繁殖性や飼養管理技術の向上、家畜を快適な環境下で飼養することにより生産性の向上に資する ア の取組も大切であることが示された。また、「食卓(消費者)」からの多様なニーズにしっかりと応えることのできる特色ある畜産物の生産とその関連情報の提供等への対応が必要であることが指摘された。

(中略)

また、家畜の改良を推進するためには、従前からの家畜の血統情報、家畜自体の能力に関するデータに加え、②DNA情報の重要性が高まっているが、近年改良事業に参加する生産者が少なくなっていることから家畜自体の能力等に関するデータの収集が難しくなっている。このため研究会では、ICT(情報通信技術)等の活用なども含めたデータの効率的な収集体制を更に検討していく必要があるとされた。

(農林水産省『家畜改良増殖目標』，令和2年3月策定より抜粋して一部改変，
https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l1_katiku/attach/pdf/index-26.pdf)

問1. これからの我が国における畜産では、どのような家畜が必要とされるか、本文に述べられている内容をその理由とともに、各75字以内で2つ述べなさい。

問2. 本文中の ア に入る用語を答えなさい。

問3. 下線部①に関して、我が国の畜産物生産に対する消費者のニーズはどのように多様化し

ているか。100字以内で述べなさい。

問4. 家畜改良増殖目標に掲げられている家畜の形質を改良することは、結果として我が国の持続可能な畜産物生産に貢献すると考えられる。持続的な畜産物生産を図るためには、家畜のどのような形質の改良が求められるか、またそれらの改良がどのように持続可能な畜産物生産に貢献するか、あなたの考えを200字以内で述べなさい。

問5. 下線部②に関して、家畜の能力はその個体の兄弟や子供（後代）のデータ、例えば、肉用牛であれば肥育および畜後に判明する肉質、乳用牛であれば分娩後の泌乳成績から評価されるが、これらのデータが得られるまでには一定の期間を要する。一方、近年DNAの情報のみから個体の様々な形質の能力を高い精度で評価できる技術が開発され実用化されているが、本技術の活用は家畜の改良においてどのようなメリットをもたらすか、DNAの情報をを用いない場合と対比させながら、あなたの考えを200字以内で述べなさい。

25 推薦 農 17／18

7 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

著作権の関係上、本文等は掲載できません。(P17～18)

出典情報のみ掲載します。

出典等：

(小松 正之著『これから食えなくなる魚』幻冬舎新書，2007 年より抜粋して一部改変。)

問 1 .

問 2.

問 3.